

経営比較分析表（令和元年度決算）

香川県 三豊市

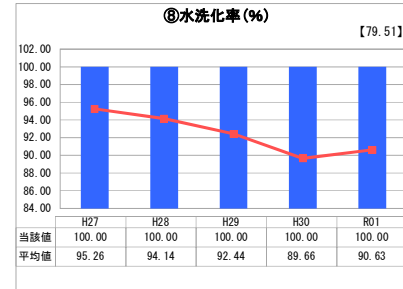
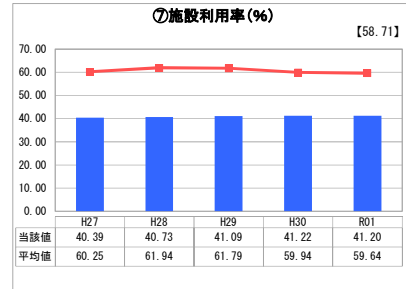
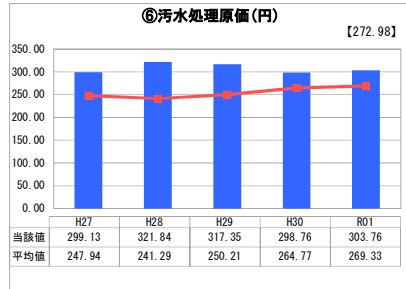
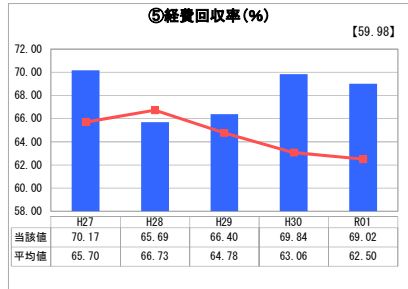
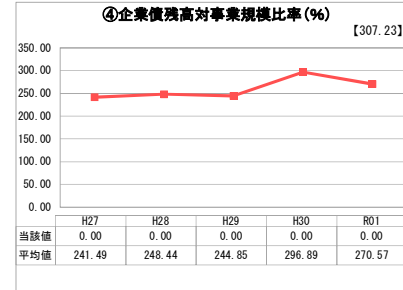
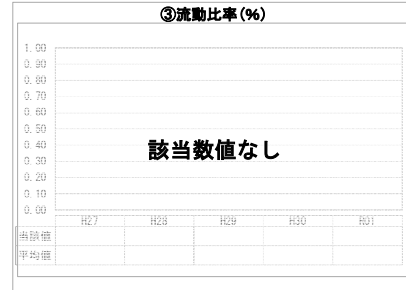
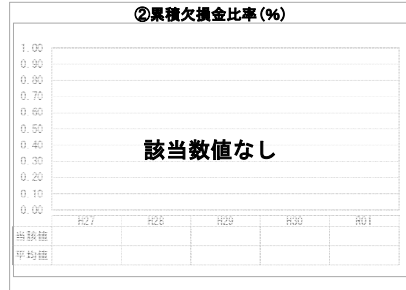
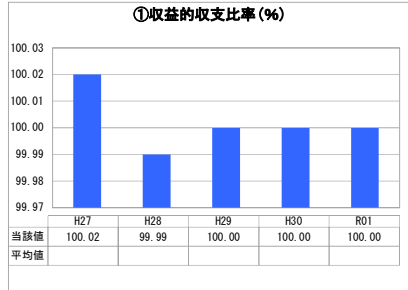
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	11.22	100.00	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
65,239	222.70	292.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,278	30.32	240.04

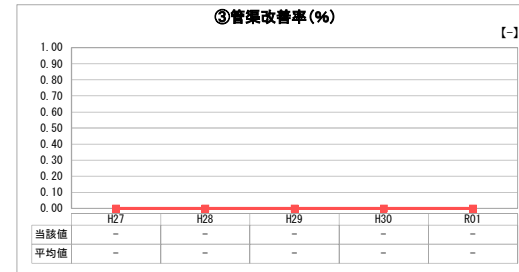
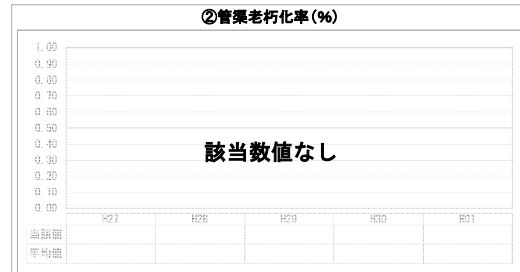
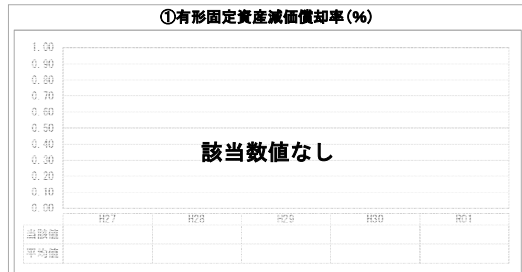
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、平成7年度～平成19年度で浄化槽設置を終了しており、現在は維持管理のみを行っている。

収益的収支比率は100%であり、経費回収率は、類似団体平均値よりも高い69.02%となっているが、100%にはほど遠く、使用料で回収できない費用を一般会計からの繰入金で賄っている状況である。

これまで費用削減の取組を進め、経費回収率は改善傾向にあったが、全ての浄化槽が設置後10年以上を経過し、古いものでは、20年以上を経過していることから、経年劣化による故障に伴う修繕料が増加したこともあり、今年度は経費回収率が悪化する結果となった。

令和2年度以降も同様に修繕料の増加が見込まれるため、更なる経費削減に向けた取組とともに、令和2年4月からの料金改定での収入増加による経営改善が必要となる。

企業債残高対事業規模比率については、地方債残高は、660,910千円であり、償還は全額一般会計負担となっている。償還は令和19年度まで続くため、しばらくはこの状態が継続すると見込まれる。

2. 老朽化の状況について

本事業は、個別方式による合併処理浄化槽の為、管渠は無く管渠の老朽化指標はない。

また、浄化槽本体については、浄化槽法に定められた保守点検・清掃・法定検査を適正に行っているが、すべての浄化槽が設置後、10年以上経過しており、今後修繕料の増加が見込まれる。

適正な維持管理をこれからも行うことにより、故障等の早期発見に努め、維持管理費（修繕料）の削減を図り、併せて浄化槽の長寿命化を目指していく。

全体総括

前述のとおり今後も修繕料の増加が見込まれることから、その他の維持管理費の削減による経営改善に努める。

令和2年度は、平成28年度に策定した経営戦略（平成28年度～令和7年度）を改定し、また、令和2年4月からの、地域での使用料の格差を是正するため、農業集落排水・漁業集落排水・特定地域生活排水処理の3事業間での使用料の改定（統一）を図り、経営の安定化に努めていく。

また平行して浄化槽の譲渡についても検討していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。